



令和4年6月30日発行

Vol.9

川辺泉田まちづくり協議会

川辺泉田まちづくり協議会は、さる4月27日(水)付けの書面による総会を行い、令和4年度の事業がスタートしました。

ごあいさつ

周囲の水田は田植えが終わり、カエルの声もにぎやかになってきました。

コロナ禍も少しずつ収まってきたようで、地域の中でも活動を再開しようという様子が見えてきましたが、皆様、お元気でお過ごしでしょうか。

川辺泉田まちづくり協議会は、4月27日(水)付けの書面による総会を行い令和4年度の事業がスタートしました。新たに企画調整検討委員会を設けました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各部会の活動の大部分が中止になり、そのため外に出で地域の皆さんと関わる機会が減り、コロナフレイルの心配もしていました。地域のための活動を再開しようとするとかなりのエネルギーが必要になりますが、昨年から、役員全員でできることから一歩ずつ…と進めてまいりました。今年度も、「川辺泉田まちづくり計画」に沿って各部会が課題を共有し連携して活動してまいります。

現在進行中のものを一部お伝えすると、高齢者の移動手段の検討⇒地域交通のあり方(福祉部会と生活環境部会との連携)、高齢者へくらし情報の提供(包括支援センターとの連携)、スポーツ吹き矢クラブの発足などです。

この広報も、広報担当を設け、お住いの皆様に有益となる情報を届けられるように工夫をしてまいります。

(昨年度は、発行回数が少なくて申し訳ありませんでした。)

今年度も、よろしくお願ひいたします。



会長 田中 敏子

川辺・泉田地域は人口1万6千人としてこの広い上田市の10分の1もの人口を抱え、地域内には病院、商店、別所線などがあり利便性の良い住みやすい地域と思っております。

しかしながら川辺・泉田地域にも少子高齢化の影響は無縁ではなく、我々自身がこの地域の未来を創るという自負の元、備えていく必要がございます。

それは未曾有の災害、何が起こるかわからない時代でも地域の繋がりを確固たるものにしていく拠点となる組織が必要です。

この川辺泉田まちづくり協議会の結束を活かし、私は川辺泉田まちづくり協議会顧問として役員の皆様、地域の皆様とともに今後の課題、国道143号拡幅整備、県道川西線廃線の代替となる地域公共交通の実現、川辺・泉田地区防災センター再整備など、大小様々な課題の解決に取り組み、川辺・泉田地域が上田市全体のモデルとなるような先駆的な活動を行います。

これからも川辺・泉田地域の皆様のご意見をいただきながら住み良い地域実現のため活動をいたしますのでどうぞよろしくお願ひいたします。



顧問 林 和明

野を駆け山を巡り川を渡ったあの頃、私は川辺・泉田から沢山の幸せを頂いた。何も心配せず自然を友に飛び回ったあの時代、今思えば本当に楽しかった。これも川辺・泉田地区の人たちが安全安心を常日頃から真剣に取り組んでくれていたからである。

半世紀も過ぎ時代は大きく変わり、簡単に子供たちが自然と戯れることのできない時代になった。しかし、昔も今も大人たちは子供たちからお年寄りまでの安全安心を真剣に取り組んでくれていることには変わらない。種々のイベントを企画し、楽しみ喜びを地域の皆で共有できる場を創ってくれている点が実に素晴らしい。これぞ、まさしく「まちづくり」と感じた。

しかし、川辺・泉田も楽しいことばかりではなく少子高齢化、空き家などの深刻な問題もある。この問題を共有し真剣に取り組み活路を見いだせる「川辺・泉田まちづくり」のスタッフがいるので心強い。そして、私自身も顧問に就かせて頂き、地域の皆様と種々の楽しみ喜びそして問題を共有し、川辺・泉田を今後見守っていきたい。



顧問 堀内 仁志